

名証通信

Communication Letter



- Contents**
- ◆ 金融経済教育に関する取組みについて…1
 - ◆ 投資・金融教育に関するアンケート調査…2

◇◇ 金融経済教育に関する取組みについて ◇◇

名古屋証券取引所では、政府が一丸となって取り組む金融経済教育の充実に協力し、次世代の個人投資家育成に資するための取組みを実施しています。その一環として、大学との連携講座（寄付講座）を開講するほか、授業へ講師を派遣して証券取引所の役割や証券投資等についての説明を行っています。その他にも、小中学生向けの夏休み親子経済教室や学生限定の株式投資コンテストも開催しています。

名古屋学院大学連携講座の開講

名古屋学院大学との連携講座（寄付講座）を、9月に開講しました。講義は「証券投資と地元企業の研究」をテーマに、企業活動への理解を深め、金融・経済知識を習得することを目的としています。また、学生が株式投資を疑似体験できるイベントとして当取引所が毎年開催している、名証株式投資コンテストを通じて、株価変動の背景となっている企業情報や経済環境を知り、実体経済の動きに触れることで、金融リテラシーを身につけていただきます。さらに、名証上場企業にもご協力いただき、企業研究を通じて地域経済への理解を深めるとともに、学生のキャリアパスの発見に役立てていただきます。

【連携講座の概要】

実施学部：名古屋学院大学経済学部

期間：2023年9月21日～2024年1月11日（全15回）

テーマ：証券投資と地元企業の研究

主な講義内容：上場企業と直接金融、株式投資の基礎知識、
名証の特徴と役割 等

講師：当取引所役職員及び名証上場企業（2社）

ゲスト講師：東海財務局、日本証券業協会



【名古屋学院大学連携講座の風景】

名証株式投資コンテスト スタート

2023年で第14回を迎える本コンテストは、学生の金融リテラシー向上と名証上場企業の認知度向上を目的に、株式投資を疑似体験できるイベントとして10月から12月にかけて毎年開催しています。今年も1,000名を超える学生が参加し熱戦を繰り広げています。



夏休み親子経済教室を 4 年ぶりに開催

コロナ禍のため 2020 年から開催を中止していた、夏休みの恒例行事である「夏休み親子経済教室」を、8月7日(月)と8日(火)の2日間、それぞれ小学4~6年生向け、中学生向けに、実に4年ぶりに開催しました。今年は小学生25名、中学生28名が参加しました。



【ボードゲームの様様】

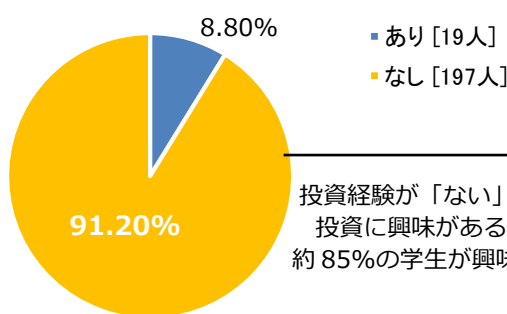
参加者は、最初に金融経済や株式会社についての説明を受け、当取引所の売買監視室を見学した後、ボードゲームで楽しみながら株式の売買を体験しました。ボードゲームでは、さまざまなニュースの発生によって、どの業種の会社がどのような影響を受けるのかについて、一生懸命考える児童・生徒の姿が見られました。

◇◇ 投資・金融教育に関するアンケート調査 ◇◇

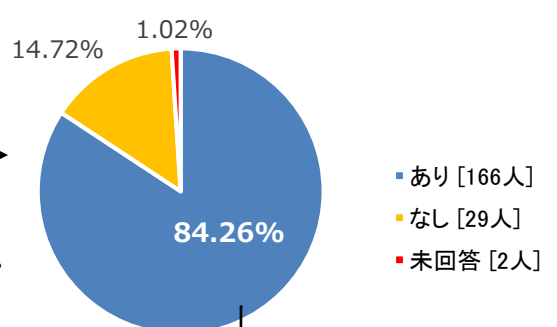
講義に出席した大学生216名(名古屋学院大学・南山大学)と親子経済教室に参加した保護者42名に対してそれぞれ、投資及び金融教育に関してアンケートを実施しましたので、その中から一部をご紹介します。

【大学生へのアンケート】

Q. 投資経験は？

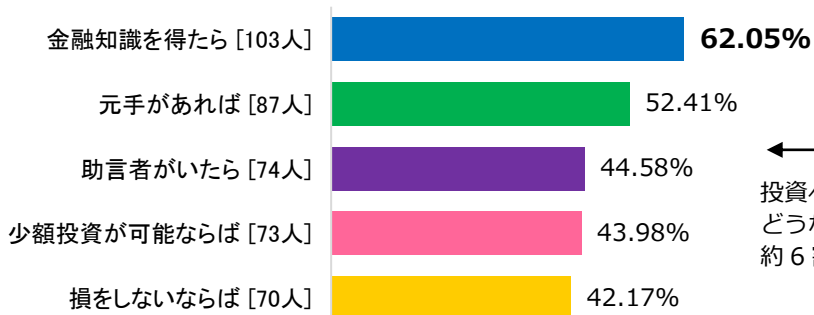


Q. 投資への興味は？



投資経験が「ない」と答えた197名の内、投資に興味があるかを質問したところ、約85%の学生が興味あると回答しました。

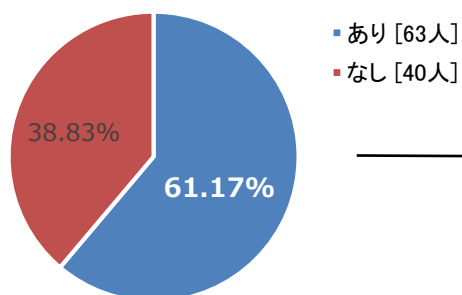
Q. どうなれば投資をはじめるか？



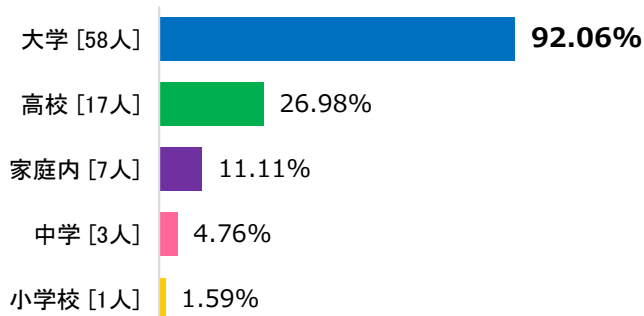
投資への興味がある166人に対して、どうなれば投資を始めるかを質問(複数回答可)したところ、約6割の学生が金融知識を得られたらと回答しました。

「金融知識を得たら」投資を開始すると答えた 103 名に対し、
①金融教育を受けた機会について、②金融知識を自発的に得ようとしているかについて質問をしました。

Q. 金融教育を受けた機会はある？

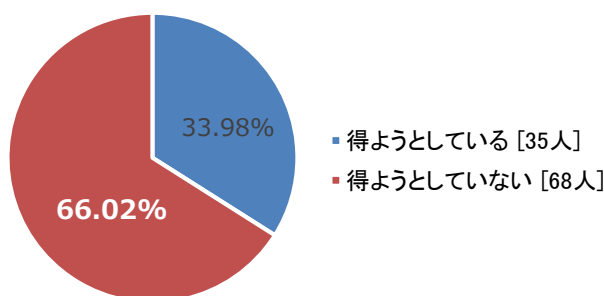


Q. どこで金融教育を受けた？（複数回答可）



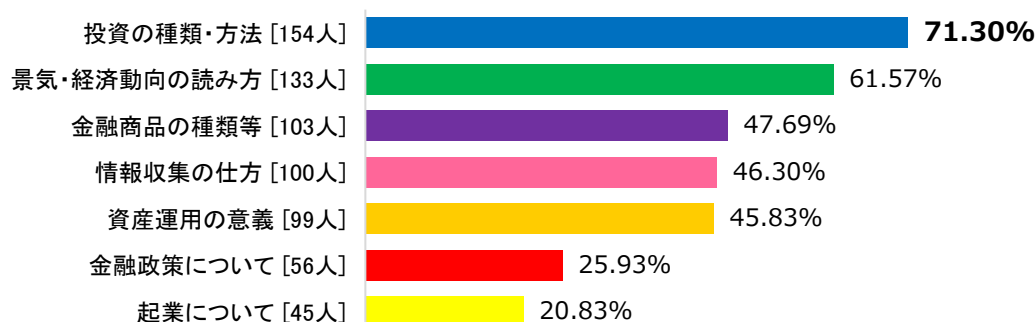
ほとんどの学生が大学生になってから金融教育を受けていることが分かりました。

Q. 金融知識を自発的に得ようとしている？



6割を超える学生が、金融知識を自発的に得ようとしておらず、積極的な姿勢が見られない傾向があることが分かりました。

Q. (全員へ質問) 身につけたい金融リテラシーは？



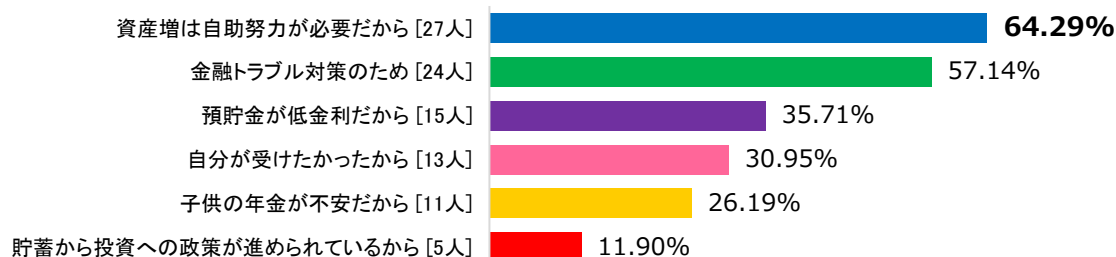
【まとめ】

投資経験が無いと答えた 9 割の学生の内、80%超が投資に興味があることが分かりました。ただし、興味のあるうちの 6 割が「金融知識があれば」投資をしてみたいと答えている反面、自発的に知識を得ようとする意欲は高くない現状であることが分かりました。これは、大学生までの間に金融教育を受ける機会が無いことが自発性不足につながる要因の一つであると思われます。

当取引所など関係機関による積極的な金融リテラシーの普及推進が必要と再認識させられました。

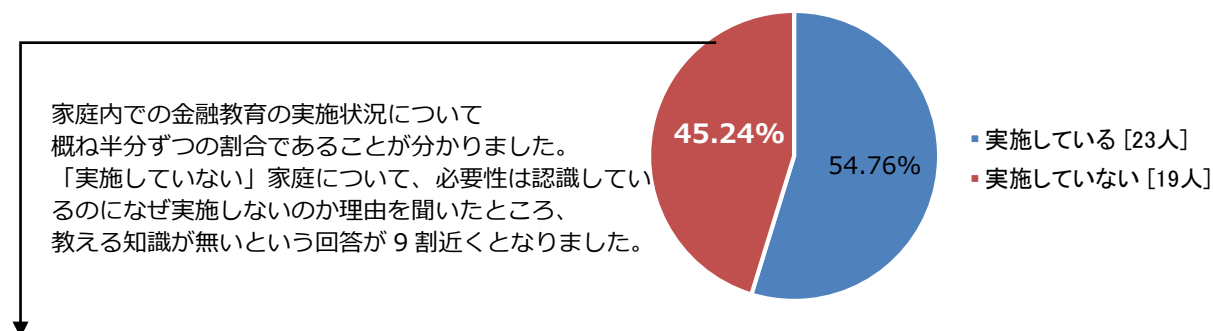
【親子経済教室参加の保護者へのアンケート】

Q. (全員へ質問) 子供に金融教育を受けさせたい理由は？ (複数回答可)

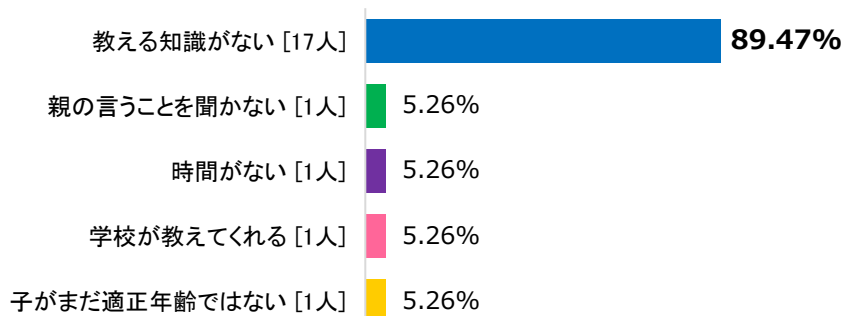


金融教育を受けさせたい理由の内、「資産を増やすためには自助努力が必要だ」の割合が最も高いと分かりました。また、将来的に預貯金だけでは心配であるとの認識が見られたり、金融トラブルを避けさせたいという思いも強い様子です。

Q. (全員へ質問) 家庭内で金融教育を実施している？



Q. 家庭で金融教育を実施しない理由



【まとめ】

約半数の家庭で子供に対する金融教育が行われておらず、その要因は親世代の金融リテラシー不足であることが分かりました。大学生へのアンケート結果と同様、親世代についても金融リテラシー向上への取組みが必要との結果となりました。

名古屋証券取引所は、今後も我が国の資本市場の発展に不可欠な存在である個人投資家の裾野拡大につながるような取組みを継続してまいります。